

しろうや！ 広島城

史跡広島城跡 マニアックすぎる歴史の痕跡めぐり

現在「史跡広島城跡」には、江戸時代・近代・現代の歴史に関する遺構がいろいろ残されています。これまでも、当館では展示やフィールドワークなどで、それらをご紹介してきましたが、今回はおそらくほとんどの人が意識してないであろう、とりわけマニアックな痕跡の紹介をしていきたいと思います。

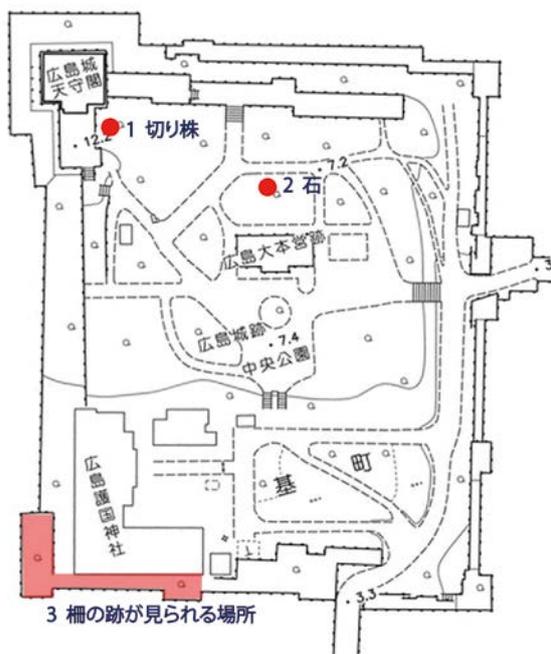


図1

1. 巨大切り株の謎！？

「広島城に来たことあるよ」「天守に上ったよ」という方、天守台の東側に大きな切り株が2つあるのにお気づきでしょうか（図1・2）？ 切り株の洞の中には時々ゴミが入れられたり、別の木の若木が生えてきたりしていますが、実はなかなか由緒あるものなんですよ。



図2 天守台東側の切り株



図3 絵はがき「広島城」個人蔵

江戸時代、本丸内には杉などの常緑針葉樹が多く植えられていました。特に堀際には、落葉樹ばかりだと秋には葉が落ちてしまい、堀が汚れるうえに、重要な本丸が見通されてしまうことから、杉や松なども植えられていたようです。

明治に入ってもこれらは伐採されることはなかったようで、戦前の本丸を撮影した航空写真を見ると、杉と思われる巨木が天守を囲うように本丸の北側を中心に生えているのがうかがえます。図3は明治末期から大正初期にかけて発行された絵はがきで、天守を東南東から撮影し

たものです。天守そばに杉の巨木が5本確認できますが、樹高（ほとんど天守の高さと同じ！！）から考えて、江戸時代からここにあったと考えて良いでしょう。例の切り株はこのうちの矢印の2本ではないかと思われます。被爆後の写真を見ると半ばから折れた無残な姿が確認でき、その後切り株だけが残されたようです。

今は全く注目されていない切り株ですが、実は古くから広島城の歴史をみつめてきた証人なのです。現在は立ち入り禁止区域内になっていて近づいて見ることはできないので、遠くからそっと見守って下さい。

2. 何故、こんな所に巨石が！？

本丸上段の広島大本営跡北側に、巨石が点在しているをご存じでしょうか？（図1・4）。一番奥の石は横倒しになっています。

図5は明治40年(1907)から大正7年(1918)ごろに発行された絵はがきの一部です。大本営跡北側の植え込みに巨石が3つのあるのがお分かりですか？ これは図4の石と同じものではないかと思われます。

この石には矢穴の痕跡があります（図6）。矢穴とは石を割るための穴です。そこに楔くさびという鉄の道具を差し込んで槌でたたくことで石を割っていました。矢穴の痕跡は城内の石垣でも多く見ることができ、図4の石も江戸時代に本丸に持ち込まれた可能性があります。当時この場所には殿様が居住する本丸御殿がありました。もしかしたらここは御殿の庭だったのかも！と思いましたが、残念ながら台所でした。ただ、台所のすぐ西側には殿様のための座敷とそれに面した庭があったので、そこにあったものが移されたのかもしれない。もしかしたら殿様が眺めた石かとも思うと、ロマンが広がりますね。

さてここは元々台所だったので、この植え込みが造られて石が移されたのは本丸御殿が無くなった後ということになります。御殿は明治7年(1874)2月5日に発生した火事によって焼失したと伝えられています。明治10年(1877)には広島鎮台（のち第五師団）司令部



図4 大本営北側の巨石

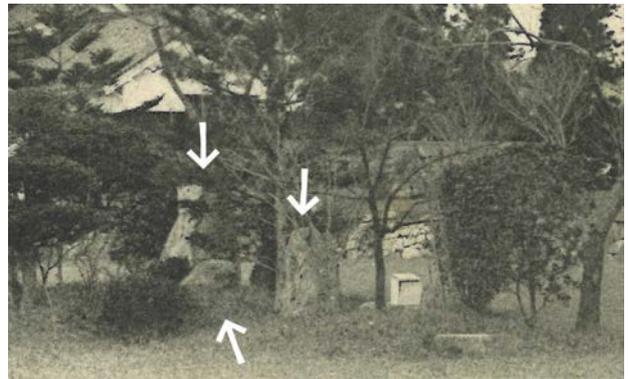


図5 絵はがき「広島名所図絵 広島城」の部分 個人蔵



図6 巨石に残された矢穴

本館 - のちの広島大本営がその跡地に設けられました。そして図5の絵はがきの写真が撮られた頃までには、大本営の北側に植え込みが造られたわけです。これ以上植え込みが造られた時期を絞る手掛かりは今のところありません。しかし、明治27年(1894)9月から翌年4月まで、日清戦争に伴い明治天皇が来広し、大本営に居住されました。天皇はほとんど建物を出られることがなかったようで、もしかしたらその目を楽しませるために造られたのかもしれないね。

3. 何故？ この場所にだけ柵がある！

広島城本丸の南西隅の櫓周辺に、図7のような転落防止用の柵の痕跡があるのをご存じでしょうか？ 本丸の堀際全体にあるわけではなく、南西隅の一部に限られています（図1）。これはいったい何でしょう？

図8は、戦後の天守が無い広島城の様子で、

矢印の所が南西隅の櫓台です。少し遠いですが、柵は確認できません。一方、図9は昭和26年(1951)3月頃に仮設で設けられた二代目天守を内堀の外から撮影したのですが、例の南西隅櫓台には柵が確認できます！それだけではなく、日よけや3本のポールも写っていますね。

実は昭和26年の10月27日から30日にかけて広島で国体秋季大会が開催されました。仮設の天守もその協賛事業として開催された体育文化博覧会に伴って建設されたものでした。各地に競技場が建設され、現在護国神社がある場所にはバレーコート「基町城跡中央排球場」が設置されました。柵はバレーの観戦者が堀に落ちるのを防止するためのものだったのです。

バレーコートは収容人数8,000人で、コートは4面ありました。図10は昭和28年(1953)にバレーコートを本丸上段から撮影したもので、画面右端には南西隅櫓台の日よけとポールも写っています。3本のポールは国旗等の掲揚のためのものでしょう。南面は堀際の城の土塁を上手く活用してスタンドを作っていますが、南西隅櫓台の東面には新たに土を盛っています。

国体後も使用されていましたが、昭和31年(1956)この場所に広島護国神社が建設されることになり、その役割を終えました。その際に南西隅櫓台の東面に盛られた土は撤去されたようです。一見朽ちた柵ですが、こんな隠れた歴史の証人だったんですね。

広島城跡には、これって何かな～と思うもの



図7 南西隅櫓台に残された転落防止用の柵



図8 写真「被爆後天守のない広島城跡」 個人蔵



図9 写真「二代目仮設天守」 原田良造氏蔵

が他にも色々転がっています。追及すると何か面白いことが分かるかもしれませんよ。

(本田美和子)



図10 写真「中央バレーコート (基町)」 昭和28年 (1953) 撮影 広島市公文書館蔵

コラム

－これからの広島城－ 広島城三の丸歴史館の整備について

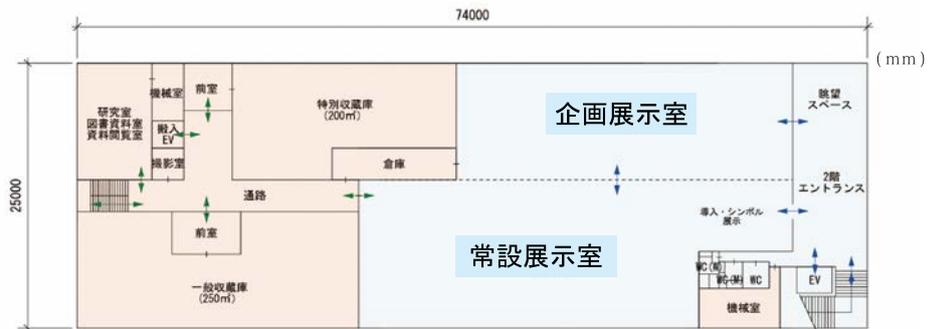
令和4年1月に策定した広島城展示等基本計画から、広島城三の丸歴史館の概要についてご紹介します。

<広島城三の丸歴史館>

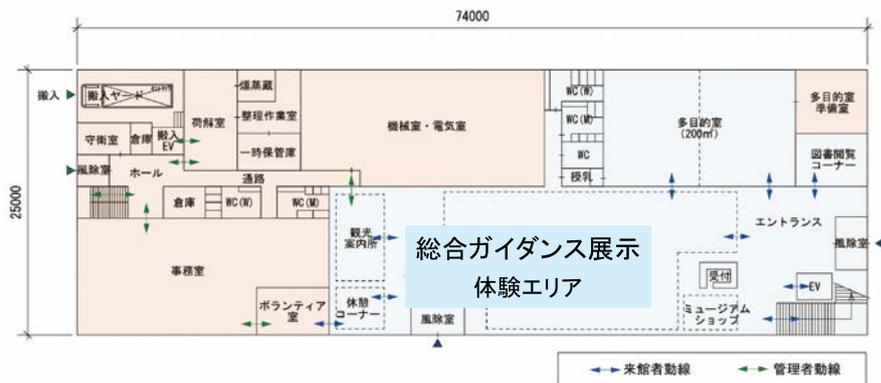
- テーマ
 - ① 近世の広島歴史・文化
 - ② 広島城の歴史
- 建築位置：右図のとおり。
- 想定規模
 - ・ 建築面積：最大約2,000㎡
 - ・ 階数：2階建
 - ・ 延床面積：約3,700㎡
- 平面図：下図のとおり。



2階平面図



1階平面図



令和8年度の供用開始を目指して、設計を進めます。これからの広島城にご期待ください。
 今回のコラムでは、木造復元基礎資料の収集②についてご紹介します。

(広島市市民局文化スポーツ部文化振興課)

<市民アンケート調査の実施>

今後、広島城三の丸歴史館の展示に関して市民の皆様から意見を募集するアンケートを実施する予定です。



編集・発行
 公益財団法人広島市文化財団
 広島城
 〒730-0011
 広島市中区基町21-1
 電話：082-221-7512
 FAX：082-221-7519
 令和4年6月28日発行

広島城利用案内
 開館時間：9：00～18：00
 (12月～2月は9：00～17：00)
 入館の受付は閉館の30分前まで
 入館料：大人370円(280円) 中学生以下無料
 高校生相当・シニア(65歳以上)180円(100円)
 ()内は30名以上の団体料金
 休館日：12月29日～12月31日(臨時休館あり)
 ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>